The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	過去，現在，そして未来へ
Author(s)	中川，威
Citation	生老病死の行動科学. 2019, 23, p. 15-16
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/73612
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

生老病死の行動科学 2019 年　第 23 巻　pp.15 - 16

寄稿
Contributed Article

過去，現在，そして未来へ

The past, the present, and the future

（国立長寿医療研究センター・日本学術振興会特別研究員 PD）中川　威
（National Center for Geriatrics and Gerontology・JSPS Postdoctral Research Fellow）Takeshi Nakagawa

講座開設 25 周年にあたり, 心からお祝い申し上げます。

生老病死を学んで気付いたこと

開設時から現在まで，講座の呼称は変わってきましたが，「老いと死」を研究，教育する講座であることは変わりません。

講座が出版してきた紀要を読み返してみると，講座の歴史だけでなく，講座が志す研究，教育の在り方を伺い知ることができます。

本紀要の呼称は，「生老病死の行動科学」です。この呼称にこそ，講座の志が表れているように思います。

命名したのは，当時教授を務められていた藤田綾子先生です。藤田先生は，紀要の呼称の理由を次のように書いておられます。

「ご周知のように「生老病死」は「人間がこの世で避けることのできない四つの苦しみ」と云われますが，その苦しみへの挑戦は人それぞれであり挑戦の仕方によっていろいろな人生の歩みが生まれます。

私たちの研究室は人生への様々な挑戦の仕方や意味を究明することによって，人々が少しでも苦しみから解放される解決の糸口を見つける手助けになりたいという思いを込めて命名しました。」(藤田, 2004)

これまで講座に在籍された方，現在在籍されている方，そしてこれから在籍される方は，立場―学部生，大学院生，事務員，研究員，教員―によらず，自らの人生を歩んでいく中で，あるいは誰かの人生と交差する中で，生きていく苦しみに遭うことと思います。

自らを顧みてみると，苦しみに遭うと，どうしたらいいのだろうと，立ち竦み，途方に暮れてきたように思います。僕は，学生，そして教員として，講座に在籍し，「老いと死」を研究，教育してきましたが，苦しみから解放される解決の糸口なんて見つからないように思うことばかりです。

それでも，ひとつ学んだことがあります。

講座に在籍していた時から, 異なる所属に在籍している現在まで，僕は，他の人がどのように生き，そして死んでいくかを観測する縦断研究に参画してきました。研究を通して，ごく稀にですが，誰かの人生と交差した，と思うことがあります。他の人が，苦しみに遭いながらも，生きていく様を垣間見て, なぜか自分が救われたように思うことがあるのです。

その人は，明治生まれの 100 歳の方で，趣味で俳句を詠まれていました。その一句を今でも思い出すことがあります。

野も山も花の色香につつまれて
命かがやくこの身うれしき

僕は, 立ち竦み, 途方に暮れてばかりいましたが, その人は思いわずらうことなく楽しんでおられるようでした。

今も，苦しみに遭うと，立ち竦み，途方に暮れてばかりいます。それでも，何でもない日常―空が青く広がっていること，風が肌を撫でて吹いていくこと, 陽の光が温かく眩しいこと―が, 儚く, 美しく, 輝いて見えて，嬉しいような，悲しいような，不思議な気持ちでいる自分に気付いて，その人もそのよ

うな気持ちだったのかなと思ったりします。そして，その瞬間は，苦しみから救われたように思うのです。

生老病死を学んで，何に気が付くかは，人それぞれだと思います。生きていることにどのような意味があるかという問いに，ひとつきりの答えはなくとも，自分なりの答えを出すための手がかりを，これからも，この講座で学んでほしいと僕も祈っています。

藤田綾子先生を悼んで

今年，藤田綾子先生が逝去されました。もうお会いすることはないのだと思うと，残念です。

2009 年に藤田先生が大阪大学を退官される時，記念品のマグカップのイラストを同期の田渕恵さんと共同で作成しました(図)。

僕は人生の歩みで立ち竦み，横道に逸れがちですが，藤田先生は歩みを止めることなく，本道に果敢に挑むような人に見えました。よく叱られたので恐ろしくはあったのですが，時々無邪気に笑う様が魅力的だったので，その笑顔を描きたかったのだと思います。

もうその笑顔を見ることは叶いませんが，僕にとっての藤田先生はいつまでも変わらず敬愛する先生です。

この場を借りて，心より冥福をお祈りいたします。

引用文献

藤田 綾子. (2004). 生老病死を学ぶ　生老病死の行動科学, *9*, 1− 2.

図　藤田綾子先生の退官記念品のイラスト